

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル) 申請様式

① 学校名	西九州大学短期大学部		
② 大学等の設置者	学校法人永原学園	③ 設置形態	短期大学
④ 所在地	佐賀県佐賀市神園3丁目18番15号		
⑤ 申請するプログラム名称	データサイエンス(リテラシーレベル)教育プログラム		
⑥ プログラムの開設年度	令和3	年度	⑦ 応用基礎レベルの申請の有無
			無
⑧ 教員数	(常勤)	22	人
		(非常勤)	56
			人
⑨ プログラムの授業を教えている教員数		31	人
⑩ 全学部・学科の入学定員	190		人
⑪ 全学部・学科の学生数(学年別)		総数	325
			人
1年次	161	人	2年次
			164
			人
3年次		人	4年次
			人
5年次		人	6年次
			人
⑫ プログラムの運営責任者			
(責任者名)	平田 孝治	(役職名)	副学長
⑬ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)	教務委員会、企画専門委員会		
(責任者名)	武富 和美	(役職名)	教務部副部長
⑭ プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)	点検・評価運営委員会		
(責任者名)	福元 裕二	(役職名)	学長
⑮ 申請する認定プログラム	認定教育プログラム		

連絡先

所属部署名	教務部教務課	担当者名	板井 幸
E-mail	kyomu_info@nisikyu-u.ac.jp	電話番号	0952-37-9614

プログラムを構成する授業科目について

①具体的な修了要件

②教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違しない

プログラムを構成する全学共通科目の「データサイエンスの基礎」、「SDGs入門」、「SDGsの実践」、「情報リテラシー I (実習を含む)」の7単位を取得すること。

③現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-1	1-6	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-1	1-6
データサイエンスの基礎	2	○	全学開講	○	○						

④「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-2	1-3	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-2	1-3
データサイエンスの基礎	2	○	全学開講	○	○						
SDGs入門	2	○	全学開講	○							
SDGsの実践	1	○	全学開講	○							

⑤「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-4	1-5	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-4	1-5
データサイエンスの基礎	2	○	全学開講	○	○						

⑥「活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	3-1	3-2	授業科目	単位数	必修	開講状況	3-1	3-2
データサイエンスの基礎	2	○	全学開講	○	○						

⑦「実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必修	開講状況	2-1	2-2	2-3
データサイエンスの基礎	2	○	全学開講	○	○	○							
情報リテラシー I（実習を含む）	2	○	全学開講		○	○							
SDGsの実践	1	○	全学開講		○	○							

⑧選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
データサイエンスの基礎	4-1統計および数理基礎		

⑨プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	データサイエンスの概要(オリエンテーション含む)、Society5.0第4次産業革命「データサイエンスの基礎」(1回目)
	1-6	データ・AI利活用のための技術・現場・最新動向「データサイエンスの基礎(3回目)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	社会で活用されているデータについて「データサイエンスの基礎」(2回目)、地域生活支援分野にみるSDGsについてデータから考える「SDGs入門」(第13回目)、保育・幼児教育分野にみるSDGsについてデータから考える「SDGs入門」(第14回目)、SDGs 推進への取り組みについてデータから考える(まとめと実践に向けて)「SDGs入門」(第15回目)、福祉推進、生活の質の向上とデータサイエンス」外部講師による実践紹介と質疑応答「SDGsの実践」(第4回目)、「佐賀県の暮らしとSDGsについて」客観的データを基とした実践紹介と質疑応答「SDGsの実践」(第9回目)
	1-3	生命科学とデータサイエンス(AI)「データサイエンスの基礎」(第4回目)、栄養とデータサイエンス(AI)「データサイエンスの基礎」(第5回目)、健康とデータサイエンス(AI)「データサイエンスの基礎」(第6回目)、化学とデータサイエンス(AI)「データサイエンスの基礎」(第7回目)、アート(「直感」や「ひらめき」とデータサイエンス「データサイエンスの基礎」(第8回目)、医療・福祉領域におけるデータ・AIの活用「データサイエンスの基礎」(第9回目)、ことばとデータサイエンス(AI)「データサイエンスの基礎」(第10回目)、心理学とデータサイエンス(AI)「データサイエンスの基礎」(第11回目)

(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	生命科学とデータサイエンス(AI)「データサイエンスの基礎」(第4回目)、栄養とデータサイエンス(AI)「データサイエンスの基礎」(第5回目)、健康とデータサイエンス(AI)「データサイエンスの基礎」(第6回目)、化学とデータサイエンス(AI)「データサイエンスの基礎」(第7回目)、アート(「直感」や「ひらめき」とデータサイエンス「データサイエンスの基礎」(第8回目)、医療・福祉領域におけるデータ・AIの活用「データサイエンスの基礎」(第9回目)、ことばとデータサイエンス(AI)「データサイエンスの基礎」(第10回目)、心理学とデータサイエンス(AI)「データサイエンスの基礎」(第11回目)
	1-5	データサイエンスの具体的事例(マーケティングAI)「データサイエンスの基礎」(第12回)
(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	データ・AIを扱う上での注意事項「データサイエンスの基礎」(第14回目)
	3-2	データ・AIを扱う上での注意事項「データサイエンスの基礎」(第14回目)
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	データの取得、説明に関する技術「データサイエンスの基礎」(第13回目)
	2-2	データの取得、説明に関する技術「データサイエンスの基礎」(第13回目)、MS-Excelによるグラフの作成「情報リテラシー I」(第13回目)、MS-Excelによる計算「情報リテラシー I」(第14回目)、各グループで決まった主題について関連する統計的データ等(客観的データ)を用いたプレゼンテーション「SDGsの実践」(第13回目)
	2-3	データの取得、説明に関する技術「データサイエンスの基礎」(第13回目)、MS-Excelによる表の作成「情報リテラシー I」(第12回目)、MS-Excelのその他の機能(データベース機能)「情報リテラシー I」(第15回目)、各グループで決まった主題について関連する統計的データ等(客観的データ)を用いたプレゼンテーション「SDGsの実践」(第13回目)

⑩プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

データサイエンスの基礎知識を有し、社会でその知識を応用・実践することができる。
SDGsに関連した地域課題を客観的データを用いて理解する事が出来、多角的な視点で具体的な取り組みを考えること出来る。

⑪プログラムの授業内容等を公表しているアドレス

https://www.nisikyu-u.ac.jp/junior_college/information/detail/i/1046/faculty/101/

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度

令和3 年度

②履修者・修了者の実績

学部・学科名称	入学定員	収容定員	令和3年度		令和2年度		令和元年度		平成30年度		平成29年度		平成28年度		履修者数合計	履修率
			履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
地域生活支援学科	100	200	79	66										79	40%	
幼児保育学科	90	180	79	71										79	44%	
															#DIV/0!	
															#DIV/0!	
															#DIV/0!	
															#DIV/0!	
															#DIV/0!	
															#DIV/0!	
															#DIV/0!	
															#DIV/0!	
															#DIV/0!	
															#DIV/0!	
															#DIV/0!	
															#DIV/0!	
															#DIV/0!	
															#DIV/0!	
															#DIV/0!	
															#DIV/0!	
合計	190	380	158	137										158	42%	

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

西九州大学短期大学部教務委員会規程、西九州大学短期大学部企画専門委員会内規

② 体制の目的

データを活用し社会の課題を発見、解決できる人材を育成することを目的に、数理・データサイエンス・AI教育の全学的な普及、関連科目の整備を行う。さらに教職課程のある学科については、ICT教育の関連科目の整備を行う。またプログラムを推進する為に、企画専門委員会において検討し、教務委員会にて決定し、実施する。

③ 具体的な構成員

<p>●教務委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員長(教務部副部長) 武富 和美 ・副学長兼地域生活支援学科長 平田 孝治 ・幼児保育学科長 野口 美乃里 ・地域生活支援学科 食健康コース主任 西岡征子 ・地域生活支援学科 介護福祉コース主任 吉村 浩美 ・地域生活支援学科 多文化コース主任 福元 健志 ・幼児保育学科 准教授 春原 淑雄 ・教務課長補佐 板井 幸 	<p>●企画専門委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員長(学長) 福元 裕二 ・副学長兼地域生活支援学科長 平田孝治 ・幼児保育学科長 野口 美乃里 ・教務部副部長 武富 和美 ・学生支援部副部長 牛丸 和人 ・入試広報部副部長 馬場 由美子 ・地域生活支援学科 食健康コース主任 西岡 征子 ・地域生活支援学科 介護福祉コース主任 吉村 浩美 ・地域生活支援学科 多文化コース主任 福元 健志 ・地域生活支援学科 講師 高元 宗一郎
--	--

④ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

令和3年度実績	42%	令和4年度予定	82%	令和5年度予定	84%
令和6年度予定	86%	令和7年度予定	88%	収容定員(名)	380

具体的な計画

本教育プログラムを構成する科目である「データサイエンスの基礎」、「SDGs入門」、「SDGsの実践」、「情報リテラシー I (実習を含む)」は全学共通開講の必修科目となっている。全員が履修する体制となっているため、履修者数・履修率の向上に向け、入学定員の管理と確実な単位修得を促すきめ細やかな指導を行う。

⑤ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

履修が無理なくできるように工夫している。すなわち、本教育プログラムを構成する科目を全学共通開講の必修科目とすることで全学科・コースの学生が抵抗感なく受講可能な体制を整えている。また、全学生が受講できるようオンデマンド教材を整備するとともに、全学科教員が本教育プログラムに携わることで履修を支援・促進している。

⑥ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

履修を促す取組として、必要な科目を全学共通開講の必修としている。

⑦ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

履修に関しては、本教育プログラムを構成する科目を全学共通開講の必修科目としている。修得に関しては、クラス担任による指導、オフィスアワーの利用、PC必携化による遠隔的な支援(Teams,メール,Forms等)、学生ホールに設置されたラーニングコモンズの活用などのサポート体制を整えている。また、本教育プログラムの構成科目のうち「データサイエンスの基礎」、「SDGs入門」、「SDGsの実践」の授業についてはTeams上にアーカイブを残し、学生がいつでも自由に講義を閲覧し振り返りが可能な環境を構築している。

⑧ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

オフィスアワー以外でも学生が直接研究室を訪ねて学習指導を受けたり質問をすることは可能である。また、令和3年度よりPC必携化したことによりいつでも遠隔的な支援(Teams,メール,Forms等)が可能となった。これらの利活用により随時質問に応じている。また、本教育プログラムには全学科教員が携わるためきめ細やかな学習指導が可能となっている。

自己点検・評価について

① 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>学内からの視点</p>	
<p>プログラムの履修・修得状況</p>	<p>本教育プログラムの履修・修得状況は教務システムにより確認できる。また、受講者毎の受講状況や課題への回答状況はTeams上でも把握することができる。</p>
<p>学修成果</p>	<p>本学において実施している学修の振り返りのうち、本教育プログラムを構成する科目の学修成果の自己評価を分析することで授業内容の学生の理解度や到達度を把握することができる。授業評価や学修成果の自己評価の結果を本教育プログラムの評価・改善に活用している。</p>

<p>学生アンケート等を通じた 学生の理解度</p>	<p>本教育プログラムの履修者全員に対して授業評価アンケートを実施しており、学生の理解度を各教員が把握し授業改善につなげるのはもちろんのこと、企画専門員委員会や教務委員会において学生の理解度を分析し授業改善に活用している。</p>
<p>学生アンケート等を通じた 後輩等他の学生への推奨度</p>	<p>本教育プログラムを全員が履修する体制となっているため推奨度は確認していないが、履修者全員に対して実施している授業評価アンケートの質問項目にある総合評価で判断している。本教育プログラムを構成している「データサイエンスの基礎」、「SDGs入門」、「SDGsの実践」、「情報リテラシー I (実習を含む)」の満足度は高く、4段階評価で平均3.5である。</p>
<p>全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況</p>	<p>本教育プログラムを構成する科目は令和3年度入学生より全学共通開講の必修科目として開設している。履修者数・履修率の向上に向け、入学定員の管理と確実な単位修得を促すきめ細やかな指導に努めたい。</p>

学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	<p>令和3年度に開始した教育プログラムであるため進路が決定したものはまだいない。例年、卒業生調査を卒業3年に実施しており、本教育プログラムを修了した卒業生の進路先や活躍状況の把握は可能である。また卒業生の進路先に対しても卒業後調査を実施しており、本教育プログラムを修了した卒業生の採用状況や評価を把握する仕組みを設けている。</p> <p>令和2年度に行った卒業後調査アンケートでは、短大等が行う卒業生や社会人向けの人材育成に関して情報技術(IT,IoT,AI,データサイエンス等)を望む意見が14.1%と2番目に多い結果であり、この結果が本学のデータサイエンス教育の開設に繋がった要因にもなっている。</p>
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<p>本学では自己点検評価体制を整えており外部評価も行っている。令和4年2月には本教育プログラムに関する外部評価委員会を開催した。外部評価委員からは学生が本教育プログラムを修了し数理AIデータサイエンス(リテラシーレベル)の力を身に着け社会へ巣立つ事は非常に有効であり、その力をもって地域社会においても役立ち、また、大学と地域社会が密接に繋がるチャンスでもあるとの評価をいただいた。授業法については、オンラインでも双方向型のツールは必要であること、また、やる気がある学生を見つけ、学生を引き上げ、支援する工夫も必要ではないかとの意見をいただいた。</p>

<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>モデルカリキュラムリテラシーレベルの導入部分に準じた内容を展開し、その時々での社会での実例やトレンドをもとにAI等がどのように活用をされているかを中心に学生が好奇心を抱くような講義内容としている。取り上げる実例や授業法については、学生アンケート等を活用し評価をするとともに、他大学の実践事例も参考にしながら改善をしている。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p>	<p>学生アンケート及び外部機関からの意見を参考に、企画専門委員会や教務委員会において学生の「分かりやすさ」の観点から講義の内容・実施方法の見直しを行っている。一方で、本教育プログラムの教育の質を担保するために、FD委員会が中心となりICT機器の利活用、Teamsを活用した遠隔授業についての全教員による事例紹介等のFD活動を行い教員のスキルアップにも努めている。</p>

②自己点検・評価体制における意見等を公表しているアドレス

https://www.nisikyu-u.ac.jp/junior_college/uploads/ck/root/files/%E5%85%A8%E4%BD%93/2022/R040512%E3%83%87%E3%83%BC%E3%82%BF%E3%82%B5%E3%82%A4%E3%82%A8%E3%83%B3%E3%82%B9/20220512_120028.pdf

科目名	データサイエンスの基礎										ナンバリング	GE_D1_01	開講 キャンパス	佐賀											
担当者	福元 裕二・平田 孝治・武富 和美・吉村 浩美・田中 知恵・高元 宗一郎・牛丸 和人・春原 淑雄・清水 陽香・矢ヶ部 陽一																								
開講年次	1	開講期	後期						単位数	2	必修・選択	必修													
開講学科	全学科						分類	共通教育科目 教養科目																	
授業の概要 及びねらい	今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常生活、仕事等の場で使いこなすことが出来る基礎的素養を主体的に身に付けること。そして、学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をもとに、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意思でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになること。																								
実務経験に 関連する 授業内容	情報教育における実践教育の実施のため、連携協定に基づいて、株式会社オプティムの村田恵介先生を特別講師として招聘している。																								
授業の 到達目標	多様な情報や知識を効果的に活用するために必要な基礎的技術と、問題を発見し解決するための考え方を体験的に身につける。 (1) データサイエンスを学ぶ理由を説明することができる。 (2) 自分の興味ある分野におけるデータサイエンスの活用方法を説明することができる。 (3) データサイエンスの基本的技術について説明することができる。																								
学習方法	オンラインでの講義とする。講義では内容に応じてグループワークやデータを用いた体験的学習を行う。また、反転学習を行う場合もある。オムニバス形式の授業とする。課題は、ポータルサイトでの提出とする。																								
テキスト及び 参考書等	テキスト：特に指定しない。各教員が配布する資料を利用する。 データや動画等のオープンリソースを学習教材に使用する。 参考書籍：「AIリテラシーの教科書」：浅岡伴夫、松田雄馬、中松正樹：東京電機大学出版局																								
	到達目標																								
	態度・志向性			知識・理解			技能・表現			行動・経験・創造的思考力			態度・志向性			知識・理解			技能・表現			行動・経験・創造的思考力			合計
	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	
比率	10		20		10			20	30			10													100
評価基準・方法																								評価割合%	
定期試験																									
小テスト等																									
宿題・授業外レポート		○			○			◎			○													80	
授業態度		○			○			◎			○													20	
受講者の発表																									
授業への参加度																									
その他																									
合計																								100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)																									

授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）			※項目
第1週	事前学習(予習)	「数理」「データサイエンス」「AI」の意味を調べる	項目①
	授業	データサイエンスの概要（オリエンテーション含む）（福元学長）	
	事後学習(復習)	データサイエンス（AI）に関連する本、記事をWebで探してみる	
第2週	事前学習(予習)	自分の身の回りでデータとして取得されていると思われるものを考える。	項目②
	授業	社会で活用されているデータについて（データ・AIの活用領域）（高元）	
	事後学習(復習)	日常生活の中でデータとして活用できるものを考える。	
第3週	事前学習(予習)	データサイエンスやAIの利活用例を調べてみる。	項目①
	授業	データ・AI利活用のための技術 データ・AI利活用の現場 データ・AI利活用の最新動向（高元）	
	事後学習(復習)	自分の興味のある分野で、データサイエンスやAIを活用したら便利だと思うものを考える。	
第4週	事前学習(予習)	生命科学とこれに関係するデータサイエンスとのつながりを考えておく。	項目②③
	授業	生命科学とデータサイエンス（AI）（平田先生）	
	事後学習(復習)	授業内容を振り返り、今後のAI活用を考える。	
第5週	事前学習(予習)	栄養の分野でどのようにAIが利活用されているか調べる	項目②③
	授業	栄養とデータサイエンス（AI）（武富先生）	
	事後学習(復習)	授業内容を振り返り、栄養の分野であつたら便利だと思うAIを活用したツールを考えてみる	
第6週	事前学習(予習)	健康に関するデータにどんなものがあるか調べてみる。	項目②③
	授業	健康とデータサイエンス（AI）（吉村先生）	
	事後学習(復習)	自分だったら健康に関するどんなデータを取り、何を明らかにしてみたいかを考えてみる。	
第7週	事前学習(予習)	自然や普段の生活の中に存在するデータや役立つモノづくりをする企業（製造業）を調べる。	項目②③
	授業	化学とデータサイエンス（AI）（田中先生）	
	事後学習(復習)	授業を振り返り、データサイエンス（AI）の活用と意義を考える。	
第8週	事前学習(予習)	アート（直感やひらめき）がなぜデータサイエンスに求められるのかについて考えておく。	項目②③
	授業	アート（「直感」や「ひらめき」）とデータサイエンス（牛丸先生）	
	事後学習(復習)	授業を踏まえて、自分がめざす職業において、どのようなデータを活用して仕事に生かしていきたいのかについて考察する。	
第9週	事前学習(予習)	医療や福祉の現場におけるデータなどの根拠に基づく実践例やAIの活用方法について調べる。医療・福祉の実践において、なぜ根拠となるデータが必要なのか、その理由について考えてみる	項目②③
	授業	医療・福祉領域におけるデータ・AIの活用（矢ヶ部先生）	
	事後学習(復習)	これからの医療・福祉の現場においては、AIがどのように活用されていくのか。これからの医療・福祉分野におけるデータサイエンスの活用方法について考察してみる。	
第10週	事前学習(予習)	数値で表すことが難しいことばをデータとして扱う方法がないか考えてみる	項目②③
	授業	ことばとデータサイエンス（AI）（春原先生）	
	事後学習(復習)	授業内容をふまえて、自分が興味を持ったことばを分析してみる	
第11週	事前学習(予習)	心理学とデータのつながりを考えてみる	項目②③
	授業	心理学とデータサイエンス（AI）（清水先生）	
	事後学習(復習)	授業内容をふまえて、自分だったら心に関するどんなデータを取ってみたいか考える	
第12週	事前学習(予習)	AIサービスを調べ、今一番ホットなAIサービスを挙げる。	項目③
	授業	データサイエンスの具体的事例（マーケティングAI）（村田先生）	
	事後学習(復習)	自分の専門領域における困りごとを挙げ、それをAIやデータサイエンスでどう解決するか考える。	
第13週	事前学習(予習)	集まったデータの特徴を表す方法について調べる	項目⑤
	授業	データサイエンスの基本的技術（高元）	
	事後学習(復習)	手元のデータを計算してみる。	
第14週	事前学習(予習)	大量のデータを扱う際に、気を付けるべきことは何か。また、そのための技術について調べる	項目④
	授業	データ・AIを扱う上での注意事項（高元）	
	事後学習(復習)	自分自身の個人情報を守るためには、どのようなことに気を付けないといけないかを考える。	
第15週	事前学習(予習)	第1回～14回の内容を振り返り、データサイエンスを人に説明する場合、どのように説明するか考える。	
	授業	まとめ（高元）	
	事後学習(復習)	自分の興味のある専門分野でデータサイエンスとして、分析したいものを考えてみる。	
備考	<p>レポートは、基本的にteamsを利用して提出すること（教員の指示に従うこと）。レポートは、第1回で1回、第2回～第3回で1回、第4回～第11回で1回、第12回で1回、第13回～15回で1回、合計6回を予定。</p> <p>「生命科学」については、予め内容を把握しておくことが好ましい。</p> <p>講義の順番は、都合により変更する場合がある。</p> <p>事前・事後学習の時間は、講義科目は各90分、演習・実験・実習科目は各30分を原則とする。</p> <p>課題（試験やレポート等）に対するフィードバックを行います。</p>		

※数理・データサイエンス・AI教育認定プログラム審査項目

科目名	SDG s 入門											ナパリンク	GE_D2_01	開講 キャンパス	佐賀										
担当者	福元 裕二・平田 孝治・西岡 征子・鶴 和也・野口 美乃里・金丸 智美・大村 綾・占部 尊士																								
開講年次	1			開講期	前期						単位数	2			必修・選択	必修									
開講学科	全学科						分類	共通教育科目 教養科目																	
授業の概要 及びねらい	2030年までの国際目標である「持続可能な開発目標（SDGs: Sustainable Development Goals）」（以下SDGs）について知り、地球規模で深く考えることで、地球市民の一員としての成長を促し、世界の課題に対する理解を深める。SDGs 推進に取り組んでいる政府や地方自治体、企業などの具体的事例の学習を通じて、自分にできることをどのように実践していくのか、その思考力を養う。																								
実務経験に 関連する 授業内容	それぞれの分野における実務経験者等が中心となり講義を担当する。																								
授業の 到達目標	多様な情報や知識を効果的に活用するために必要な基礎的技術と、問題を発見し解決するための考え方を体験的に身につける。 (1) データサイエンスを学ぶ理由を説明することができる。 (2) 自分の興味ある分野におけるデータサイエンスの活用方法を説明することができる。 (3) データサイエンスの基本的技術について説明することができる。																								
学習方法	オンラインでの講義とする。また、オムニバス形式の授業とする。 テキストおよび配布プリントに基づいて進めていく。また、学習状況に応じてテキスト以外の教材を活用する。 学修ポートフォリオを活用し、レポートの提出などを求めることがあります。																								
テキスト及 び参考書等	テキスト：川廷昌弘著「未来をつくる道具 わたしたちのSDGs」（ナツメ社） 参考書籍：Think the Earth著「未来を変える目標 SDGsアイデアブック」（紀伊國屋書店） 池上彰監修「世界がぐっと近くなる SDGsとボクラをつなぐ本」（学研プラス）																								
	到達目標																								
	態度・志向性			知識・理解			技能・表現			行動・経験・創造的 思考力			態度・志向性			知識・理解			技能・表現			行動・経験・創造的 思考力			合計
	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	
比率	20			20	10		20			20	10														100
評価基準・方法																								評価割合%	
定期試験																									
小テスト等																									
宿題・授業外レポート	○			◎						○															60
授業態度																									
受講者の発表																									
授業への参加度	○						◎																		40
その他																									
合計																								100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)																									

授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）			※項目
第1週	事前学習(予習)	シラバスやテキストを基に学習内容を確認し、講義に備えておくこと。	
	授業	SDGsとは何かーなぜ学ぶのか（オリエンテーション含む）（担当：福元裕二学長、占部）	
	事後学習(復習)	「SDGsを学ぶ意義」について理解できたことをノートにまとめておくこと。	
第2週	事前学習(予習)	参考書籍や配布物を参考に事前学習し、講義に備えておくこと。	
	授業	持続可能な開発目標（5つの分類と17の目標）ーその背景と展望（担当：占部）	
	事後学習(復習)	「持続可能な開発目標（5つの分類と17の目標）」について理解できたことをノートにまとめておくこと。	
第3週	事前学習(予習)	参考書籍や配布物を参考に事前学習し、講義に備えておくこと。	
	授業	SDGsの理解ー豊かさ（Prosperity）について知る（担当：野口）	
	事後学習(復習)	授業内容の要点を整理し、授業で扱ったテーマに関する理解を深めておくこと。	
第4週	事前学習(予習)	「エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」「働きがいも経済成長も」「産業と技術革新の基盤をつくろう」「人や国の不平等をなくそう」「住み続けられるまちづくりを」などのテーマに沿って事前に調べておくこと。	
	授業	SDGsの取り組みー豊かさ（Prosperity）について考える（担当：野口）	
	事後学習(復習)	「人々の豊かさにおけるSDGsの取り組み」について理解できたことをノートにまとめておくこと。	
第5週	事前学習(予習)	参考書籍や配布物を参考に事前学習し、講義に備えておくこと。	
	授業	SDGsの理解ー地球（Planet）について知る（担当：西岡）	
	事後学習(復習)	授業内容の要点を整理し、授業で扱ったテーマに関する理解を深めておくこと。	
第6週	事前学習(予習)	「つくる責任つかう責任」「気候変動に具体的な対策を」「海の豊かさを守ろう」「陸の豊かさを守ろう」などのテーマに沿って事前に調べておくこと。	
	授業	SDGsの取り組みー地球（Planet）について考える（担当：西岡）	
	事後学習(復習)	「地球環境におけるSDGsの取り組み」について理解できたことをノートにまとめておくこと。	
第7週	事前学習(予習)	参考書籍や配布物を参考に事前学習し、講義に備えておくこと。	
	授業	SDGsの理解ー平和（Peace）について知る（担当：大村）	
	事後学習(復習)	授業内容の要点を整理し、授業で扱ったテーマに関する理解を深めておくこと。	
第8週	事前学習(予習)	「平和と公正をすべての人に」のテーマに沿って事前に調べておくこと。	
	授業	SDGsの取り組みー平和（Peace）について考える（担当：大村）	
	事後学習(復習)	「平和な社会におけるSDGsの取り組み」について理解できたことをノートにまとめておくこと。	
第9週	事前学習(予習)	参考書籍や配布物を参考に事前学習し、講義に備えておくこと。	
	授業	SDGsの理解ーパートナーシップ（Partnership）について知る（担当：鶴）	
	事後学習(復習)	授業内容の要点を整理し、授業で扱ったテーマに関する理解を深めておくこと。	
第10週	事前学習(予習)	「パートナーシップで目標を達成しよう」のテーマに沿って事前に調べておくこと。	
	授業	SDGsの取り組みーパートナーシップ（Partnership）について考える（担当：鶴）	
	事後学習(復習)	「パートナーシップ」について理解できたことをノートにまとめておくこと。	
第11週	事前学習(予習)	参考書籍や配布物を参考に事前学習し、講義に備えておくこと。	
	授業	SDGsの取り組みー人間（People）について知る（担当：金丸）	
	事後学習(復習)	授業内容の要点を整理し、授業で扱ったテーマに関する理解を深めておくこと。	
第12週	事前学習(予習)	「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」「すべての人に保健と福祉を」「質の高い教育をみんなに」ジェンダー平等を実現しよう」「安全な水とトイレを世界中に」などのテーマに沿って事前に調べておくこと。	
	授業	SDGsの取り組みー人間（People）について考える（担当：金丸）	
	事後学習(復習)	「人間として生きるうえでのSDGsの取り組み」について理解できたことをノートにまとめておくこと。	
第13週	事前学習(予習)	各目標と取組事例を振り返り、専門分野との関わりをまとめておくこと。	
	授業	地域生活支援分野にみるSDGsについてデータから考える（担当：平田）	項目②
	事後学習(復習)	今後の課題を発見し、解決策を考えまとめる。	
第14週	事前学習(予習)	保育・幼児教育分野でのSDGs推進の取り組みについて事前に調べておくこと。	
	授業	保育・幼児教育分野にみるSDGsについてデータから考える（担当：占部）	項目②
	事後学習(復習)	保育・幼児教育分野でのSDGs推進の取り組みについて理解できたことをノートにまとめておくこと。	
第15週	事前学習(予習)	これまでの学習内容についてまとめたノートを参考に振り返りを行い、理解度を確認しておくこと。	
	授業	SDGs推進への取り組みについてデータから考える（まとめと実践に向けて）（担当：占部）	項目②
	事後学習(復習)	地球市民の一員として理解すべき「SDGs推進への取り組み」の内容についてまとめること。	
備考	<p>授業計画の各週の内容は、授業で取り上げる主な事項を示しています。 授業計画はあくまで予定であり、進度に応じて変更が出る場合があります。 提出物は締切厳守。かならず期日を守るように心がけてください。 課題は、第1回、第3回、第5回、第7回、第9回、第11回、第13回、第15回でそれぞれ講義の感想を提出すること。 レポートは、第2回、第4回、第6回、第8回、第10回、第12回でそれぞれ1回、合計6回を予定。 レポートや課題は、基本的にポータルサイトを利用して提出すること。 配布資料などにおいて特別な配慮が必要な場合は、事前に申し出てください。 事前・事後学習の時間は、講義科目は各90分、演習・実験・実習科目は各30分を原則とする。 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックを行います。</p>		

科目名	SDG s の実践											ナパリンク	GE_D2_02	開講 キャンパス	佐賀											
担当者	福元 健志・尾道 香奈恵・松田 佐智子・馬場 由美子・立川 かおり・牛丸 和人・川邊 浩史・中島 加奈・占部 尊士																									
開講年次	1	開講期	後期						単位数	1	必修・選択	必修														
開講学科	全学科						分類	共通教育科目 教養科目																		
授業の概要 及びねらい	2030年までの国際目標である「持続可能な開発目標（SDGs: Sustainable Development Goals）」（以下SDGs）について、専門分野に関連する内容を含む諸課題に対し、多様な分野で実践している専門家と対話しながら、解決に向けた実践事例やヒントとなる考え方等について学ぶ。また、SDGsにおける17の課題を「自分ごと」として捉え、各種データも活用しながら課題解決に向けた幅広い実践力を養うことをねらいとする。																									
実務経験に 関連する 授業内容	設定したSDG sのゴールに関連する実践を行っている外部講師を招聘し演習を展開する。 龍谷学園SDGs推進担当教諭 中村 純一 氏、佐賀市役所 職員 内田 勝也 氏、唐津市リサイクル業者代表 松原 嘉之 氏 日本青年会議所九州地区佐賀ブロック協議会地方創生実現グループSDGs推進委員会 委員長 古賀 久達 氏 国際弁護士 堤 ゆうじ 氏、地球市民の会 大野 博之 氏、多久市まちづくり協議会 笹川 俊一 氏																									
授業の 到達目標	(1) SDGsのゴールやターゲットをもとに、それぞれの課題解決のために取り組む意欲・態度を身につける。 (2) SDGsに関わる各種データを活用しながら、問題を多角的な視点で捉えることができる。 (3) SDGsの目標について、自己の専門領域に関する課題はもとより、幅広く課題解決への実践意欲を高める。																									
学習方法	ディスカッション（オンライン型）とグループワーク（オンライン型・一部対面）によるハイブリッド型授業を展開する。 ※学修ポートフォリオや会議システム（Teams）を活用し、レポートの提出などを求めることがあります。																									
テキスト及 び参考書等	参考書籍：池上彰監修「世界がぐっと近くなる SDGsとボくらをつなぐ本」（学研プラス）※「SDG s 入門」で使用した教科書 参考資料：招聘する講師の分野に関する資料やHP等を参考にすることがある。																									
	到達目標																									
																		合計								
	態度・志向性			知識・理解			技能・表現			行動・経験・創造的思考力			態度・志向性			知識・理解			技能・表現			行動・経験・創造的思考力				
1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)			
比率	15			5	5	5				20	5	5	40													100
評価基準・方法																							評価割合%			
定期試験																										
小テスト等																										
宿題・授業外レポート	○			○			○			◎															30	
授業態度	○			○						◎															30	
受講者の発表	○			○			○			◎															30	
授業への参加度				○						○															10	
その他																										
合計																							100			
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)																										

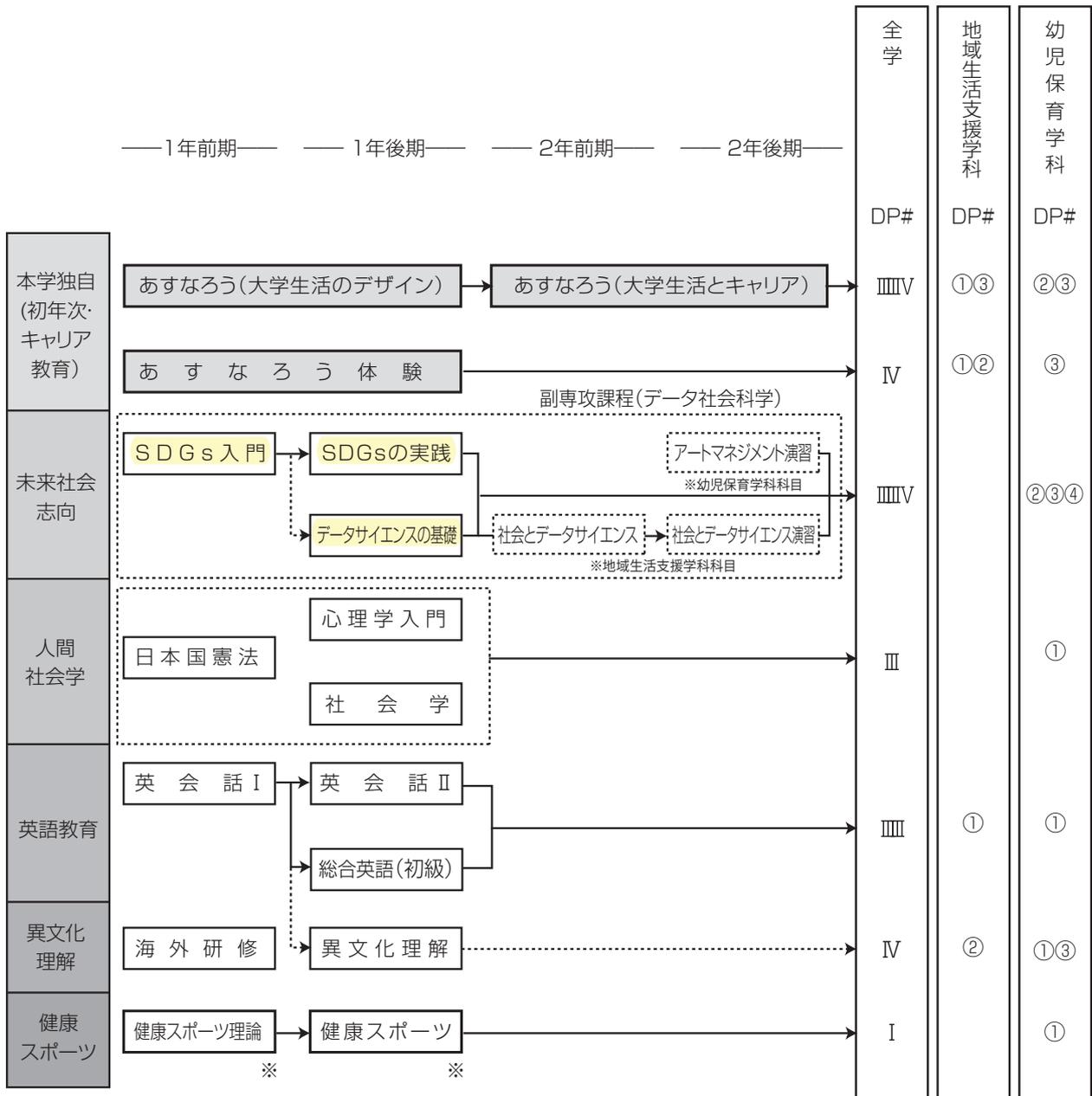
授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）			※項目
第1週	事前学習(予習)	「SDGs入門」で使用した教科書や資料等を読み返しておく。	
	授業	オリエンテーション①：「SDGs入門」の学習内容の振り返りと「SDGsの実践」シラバス説明と授業の進め方（グループワーク等）について質疑応答。	
	事後学習(復習)	所属する学科やコースに関連する課題、または個人的に興味がある課題を選んでおく。	
第2週	事前学習(予習)	前回の授業の内容を記録したメモや資料を確認しておく。	
	授業	オリエンテーション②：グループ発表、自己紹介、グループ内役割決め、スケジュール確認（教室とオンライン状況について）	
第3週	事後学習(復習)	グループ（役割）とスケジュールを確認して次回の授業の準備をする。Teamsのインストール等も確認しておく。	
	事前学習(予習)	対象となる先進事例について基本情報を調べておく	
	授業	SDGs先進事例について学ぶ（中学生とのコラボレーション・意見交換）	
第4週	事後学習(復習)	意見交換内容を記録しておく。	
	事前学習(予習)	SDG「3 すべての人に健康と福祉を」に関連する資料を調べ意見や質問を準備する。	
第5週	授業	「福祉推進、生活の質の向上とデータサイエンス」外部講師による実践紹介と質疑応答	項目②
	事後学習(復習)	テーマに関する実践紹介や質疑応答の内容に対する自分の考えをまとめる。	
	事前学習(予習)	SDGs「2 飢餓をゼロに」（14 海の豊かさを守ろう・15 陸の豊かさを守ろう）に関して身近にある課題や解決策等について調べておく。	
第6週	授業	「廃棄食品と再利用について」外部講師による実践紹介と質疑応答	
	事後学習(復習)	テーマに関する実践紹介や質疑応答の内容に対する自分の考えをまとめる。	
	事前学習(予習)	SDGs「10 人や国の不平等をなくそう」（1 貧困をなくそう 2 飢餓をゼロに）に関して身近にある課題や解決策等について調べておく。	
第7週	授業	「異文化理解とSDGsについて」外部講師による実践紹介と質疑応答	
	事後学習(復習)	テーマに関する実践紹介や質疑応答の内容に対する自分の考えをまとめる。	
	事前学習(予習)	第4週から第6週までの資料や自身の意見をまとめておく。	
第8週	授業	第4週から第6週までの振り返りとディスカッション	
	事後学習(復習)	これまでの実践紹介や質疑応答の内容に対する自分の考えをまとめる。	
	事前学習(予習)	SDGs「1 貧困をなくそう」「2 飢餓をゼロに」に関連する資料を調べ意見や質問を準備する。	
第9週	授業	「貧困に関する取り組みについて」外部講師による実践紹介と質疑応答	
	事後学習(復習)	テーマに関する実践紹介や質疑応答の内容に対する自分の考えをまとめる。	
	事前学習(予習)	SDG「1 住み続けられるまちづくりを」に関連する資料を調べ意見や質問を準備する。	
第10週	授業	「佐賀県の暮らしとSDGsについて」客観的データを基とした実践紹介と質疑応答	項目②
	事後学習(復習)	テーマに関する実践紹介や質疑応答の内容に対する自分の考えをまとめる。	
	事前学習(予習)	SDGs「1 住み続けられるまちづくりを」（3 すべての人に健康と福祉を）に関連する資料を調べ意見や質問を準備する。	
第11週	授業	「高齢者にやさしいまちづくり」外部講師による実践紹介と質疑応答	
	事後学習(復習)	テーマに関する実践紹介や質疑応答の内容に対する自分の考えをまとめる。	
	事前学習(予習)	第8週から第10週までの資料や自身の意見をまとめておく。	
第12週	授業	第8週から第10週までの振り返りとディスカッション	
	事後学習(復習)	これまでの実践紹介や質疑応答の内容に対する自分の考えをまとめる。	
	事前学習(予習)	これまでのすべての話題とその他のSDGsの取り組みについて関連する資料を集め、自身の意見をまとめておく。	
第13週	授業	発表の準備①：各グループでこれまでのディスカッションを基に主題を選び、発表の為の資料を収集、整理する。	項目⑤
	事後学習(復習)	次の準備に向けて情報の整理をしておく。	
	事前学習(予習)	第12週の資料にあるグラフや図表といった統計的データについて理解しておく。	
第14週	授業	発表の準備②：各グループで決まった主題について関連する統計的データ等（客観的データ）を用いたプレゼンテーションができるように準備する。プレゼンの練習を行う。	
	事後学習(復習)	プレゼンに向けて役割分担（発表者・発表の方法（PowerPoint・模造紙等））し準備を進める。	
	事前学習(予習)	プレゼンに向けて役割分担を確認して資料等を準備する。	
第15週	授業	前半（A、B、C、D）グループが「SDGsと私たちの○○」といったテーマで発表する。	
	事後学習(復習)	発表内容を記録し、最終レポート作成の為の準備をする。	
第16週	授業	後半（E、F、G、H）グループが「SDGsと私たちの○○」といったテーマで発表する。	
	事後学習(復習)	発表内容を記録し、最終レポート作成の為の準備をする。	
備考	<p>・第3、4、5、6、8、9、10週（外部講師の話とディスカッション）については、代表グループが主として講師と（基本はオンラインで）ディスカッションして、他のグループはオンラインで視聴する。</p> <p>・第7、11週（講師の話聞いた後の週）については、全グループがグループ担当教員の指導の下でオンラインによるディスカッションを行う。</p> <p>・第2、12、13週については、3つの教室に分かれてグループワーク、プレゼンに向けたディスカッションと準備を行う。</p> <p>なお、外部講師を招いた講義とディスカッションについては日付が変更となる可能性もあります。</p> <p>事前・事後学習の時間は、講義科目は各90分、演習・実験・実習科目は各30分を原則とする。課題（試験やレポート等）に対するフィードバックを行います。</p>		

※数理・データサイエンス・AI教育認定プログラム審査項目

科目名	情報リテラシー I (実習を含む)										ナンバリング	LL_A1_03	開講 キャンパス	佐賀											
担当者	高元 宗一郎																								
開講年次	1		開講期	前期						単位数	2		必修・選択	必修											
開講学科	全学科						分類	専門教育科目 必修科目																	
授業の概要 及びねらい	コンピュータを効率よく利用するための基礎知識を講義し、利用方法の演習を行います。具体的には、コンピュータの基礎知識及び活用方法、インターネットの基礎知識及び活用方法、文書や資料の作成方法の講義及び演習を行います。																								
実務経験に 関連する 授業内容																									
授業の 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 学内情報処理システムにおいて、基本的な利用を行うことができる。 2) インターネットの概要が理解でき、Webページの閲覧や電子メールの送受信ができる。 3) ソフトウェアの役割やハードウェアの連携が理解できる。 4) 文書作成ソフトの基本動作、文字入力やビジネス文書の書式に基づき作成することができる。 5) 文書内で表や図形の作成ができ、文書の中に挿入・編集することができる。 6) 作成した文書の体裁を整え、印刷することができる。 7) 表計算ソフトにおいて、基本的な表を作成することができる。 8) 与えられたデータから、基本的なグラフを作成することができる。 9) 与えられたデータを簡単な関数等を使い、計算及びデータ処理を行うことができる 																								
学習方法	講義及びパソコンを用いた演習を行います。 ※新型コロナウイルス感染拡大状況により、授業の一部または全部を遠隔授業に切り替える場合があります。																								
テキスト及 び参考書等	テキスト：30時間でマスター office2019 実教出版株式会社																								
	到達目標																								
	汎用的能力要素										専門的能力要素								合計						
	態度・ 志向性			知識・ 理解			技能・表現			行動・経験・ 創造的 思考力			態度・ 志向性			知識・ 理解				技能・表現			行動・経験・ 創造的 思考力		
	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)		1)	2)	3)	1)	2)	3)
比率	10			10	20	20		10	30																100
評価基準・方法																							評価割合%		
定期試験																									
小テスト等																									
宿題・授業外レポート		○			○			◎														60			
授業態度																									
受講者の発表																									
授業への参加度		○			○			○														40			
その他																									
合計																							100		
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)																									

授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)			※項目
第1週	事前学習(予習)	今までのコンピュータの使用経験を振り返る	
	授業	学内情報処理システムの利用方法	
	事後学習(復習)	講義中の操作について確認しておく	
第2週	事前学習(予習)	電子メールの基本機能を確認する	
	授業	学内情報処理システム(電子メール)の利用方法及び情報モラルについて	
	事後学習(復習)	講義中の操作について確認する	
第3週	事前学習(予習)	コンピュータの動作原理や歴史について調べる	
	授業	コンピュータの基礎知識(コンピュータの動作原理や歴史等)	
	事後学習(復習)	講義内容を振り返る	
第4週	事前学習(予習)	インターネットの動作原理や歴史について調べる	
	授業	インターネットの基礎知識(インターネットの動作原理や歴史、インターネット上のモラル等)	
	事後学習(復習)	講義内容を振り返る	
第5週	事前学習(予習)	コンピュータの基本的操作について思い出しておく	
	授業	コンピュータの基本的操作(Windowsの基礎およびタッチタイピングと日本語入力)	
	事後学習(復習)	Windowsの操作、タッチタイピングの操作について、確認する	
第6週	事前学習(予習)	教科書第3章1と2を読んでおく	
	授業	MS-Wordの機能と操作(画面構成、日本語入力システム等)	
	事後学習(復習)	講義中の操作について確認しておく	
第7週	事前学習(予習)	教科書第3章3～9を読んでおく	
	授業	MS-Wordによる文書の作成(文の入力、ページ設定、印刷、文書作成、複写・削除・移動等)	
	事後学習(復習)	講義中の操作について確認しておく	
第8週	事前学習(予習)	教科書第3章10～12を読んでおく	
	授業	MS-Wordによる文書の作成(編集機能、箇条書き、文字飾り、表の作成、ビジュアルな文書等)	
	事後学習(復習)	講義中の操作について確認しておく	
第9週	事前学習(予習)	教科書第5章1～4を読んでおく	
	授業	MS-PowerPointの機能と操作(画面構成と基本的な操作)	
	事後学習(復習)	講義中の操作について確認しておく	
第10週	事前学習(予習)	教科書第5章5～10を読んでおく	
	授業	MS-PowerPointによるスライドの作成(文字、図形、グラフ等)	
	事後学習(復習)	講義中の操作について確認する	
第11週	事前学習(予習)	教科書第5章11～13を読んでおく	
	授業	MS-PowerPointのその他の機能と操作(テーマの設定、配布資料等)	
	事後学習(復習)	演習内容を確認する	
第12週	事前学習(予習)	教科書第4章1～4を読んでおく	項目 ⑤
	授業	MS-Excelによる表の作成	
	事後学習(復習)	講義中の操作について確認しておく	
第13週	事前学習(予習)	教科書第4章10を読んでおく	項目 ⑤
	授業	MS-Excelによるグラフの作成	
	事後学習(復習)	講義中の操作について確認しておく	
第14週	事前学習(予習)	教科書第4章6、11～12を読んでおく	項目 ⑤
	授業	MS-Excelによる計算(関数の利用等)	
	事後学習(復習)	講義中の操作について確認しておく	
第15週	事前学習(予習)	教科書第4章13を読んでおく	項目 ⑤
	授業	MS-Excelのその他の機能(データベース機能等)	
	事後学習(復習)	講義中の操作について確認しておく	
備考	<p>演習が中心の講義となりますので、極力欠席しないでください。もし、欠席した場合は、各自で講義内容を把握するように努めてください。なお、上記授業計画はあくまで予定であり、講義の進捗によって若干内容を変更する場合があります。</p> <p>事前・事後学習の時間は、講義科目は各90分、演習・実験・実習科目は各30分を原則とする。 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックを行います。</p>		

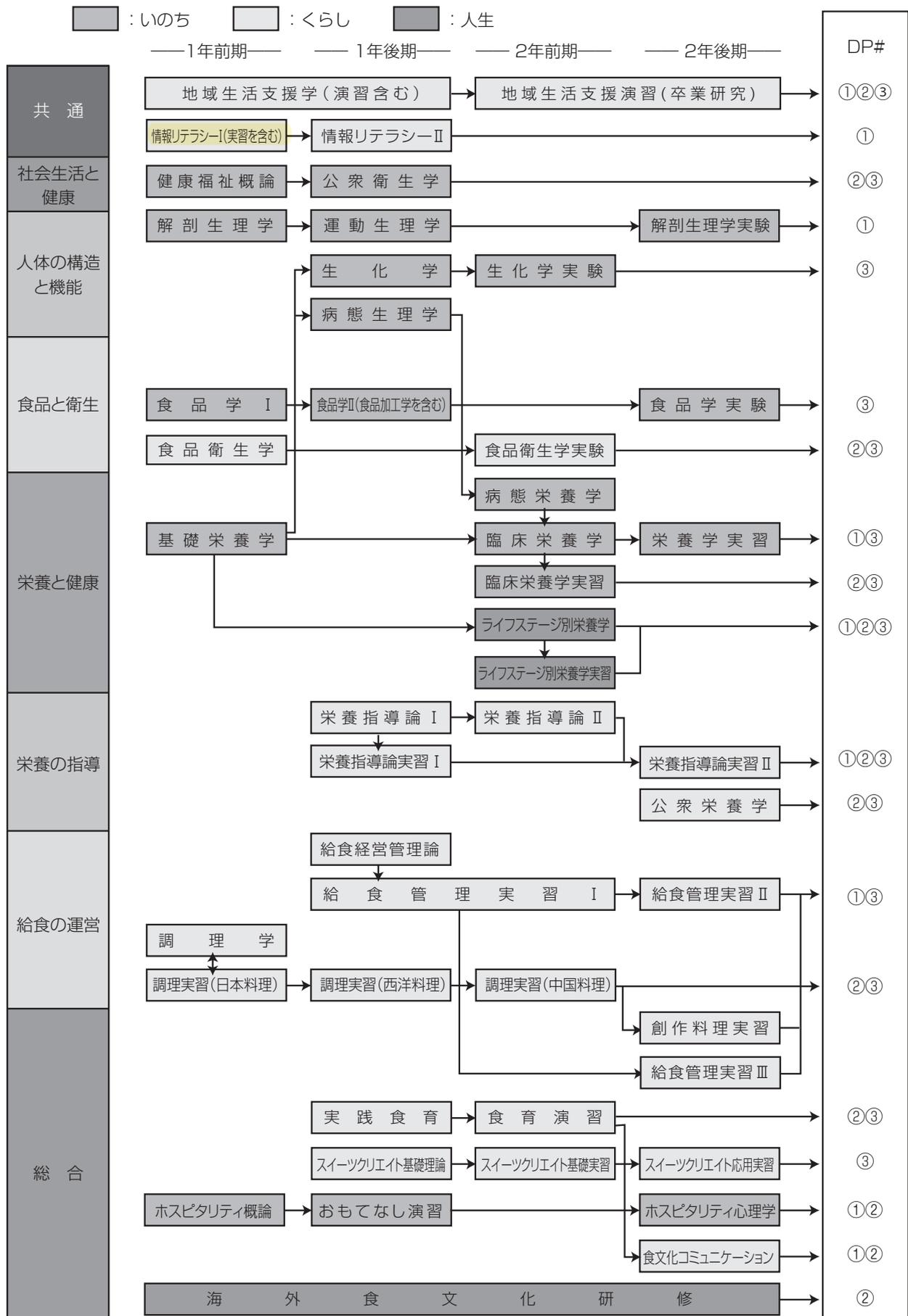
令和3年度入学生 科目系統図 (共通教育科目)



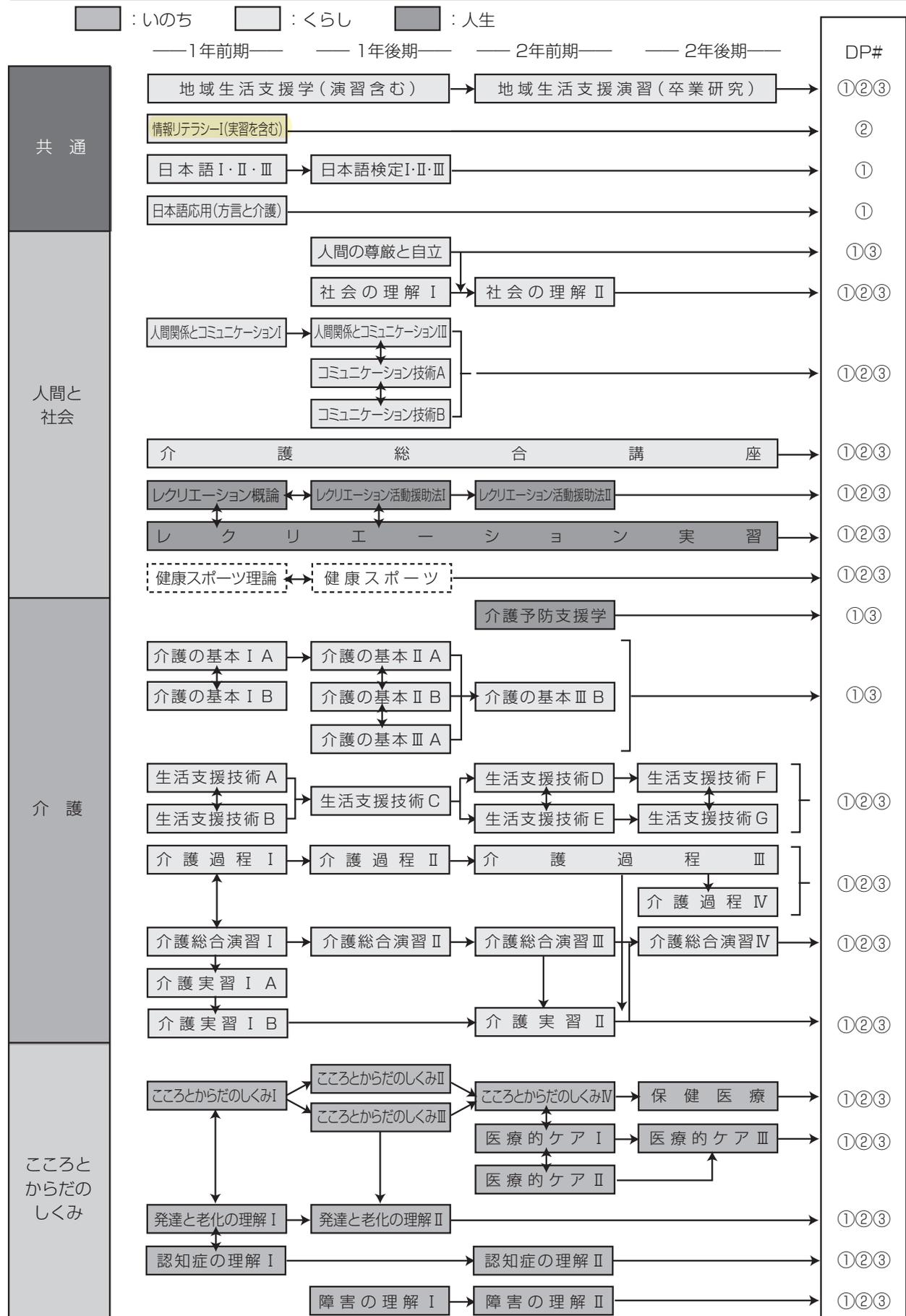
01
02
03
04
05

履修リスト

令和3年度入学生 科目系統図 (地域生活支援学科食健康コース 専門教育科目)

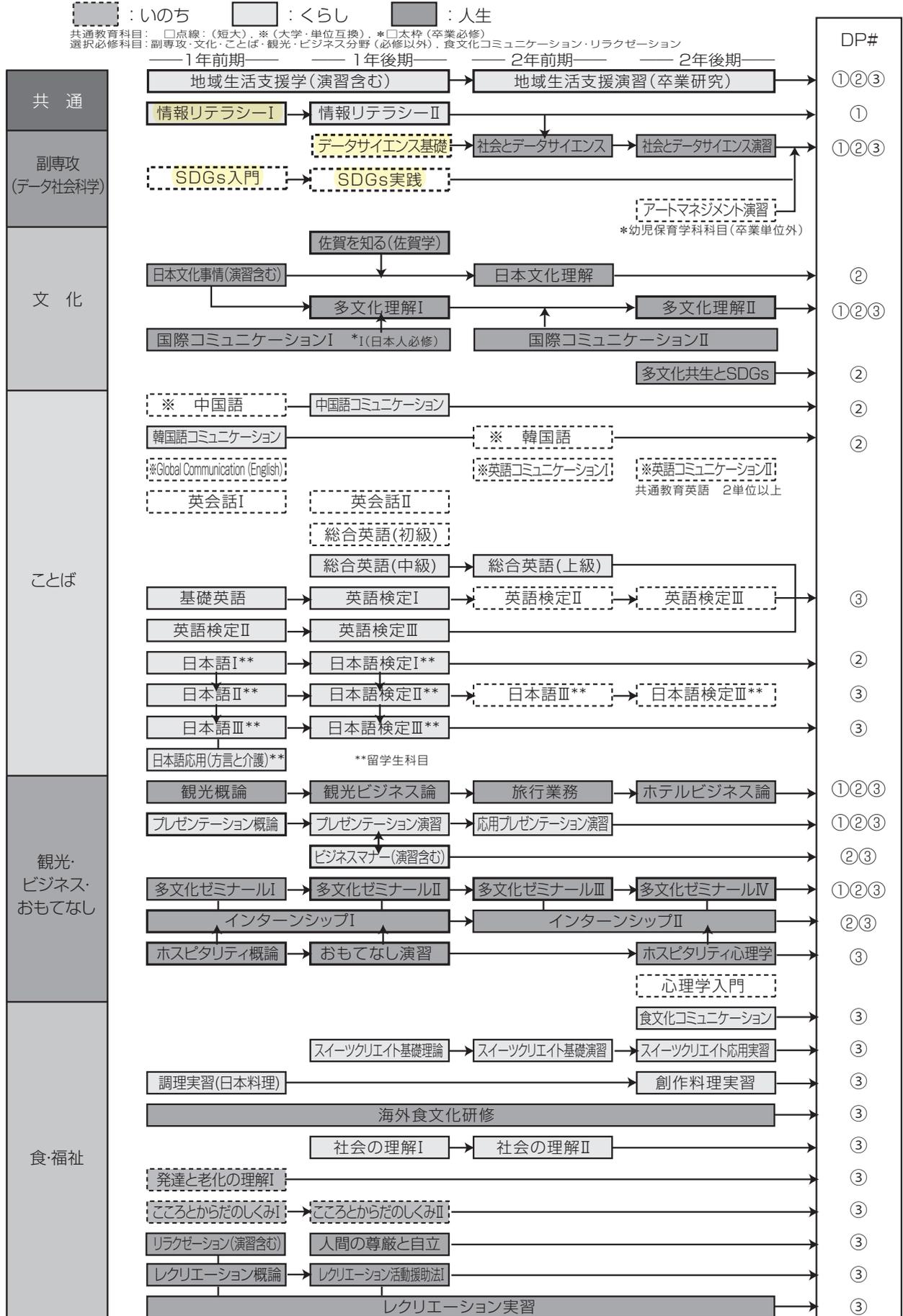


令和3年度入学生 科目系統図 (地域生活支援学科介護福祉コース 専門教育科目)



- 01
 - 02
 - 03
 - 04
 - 05
- 履修プログラム

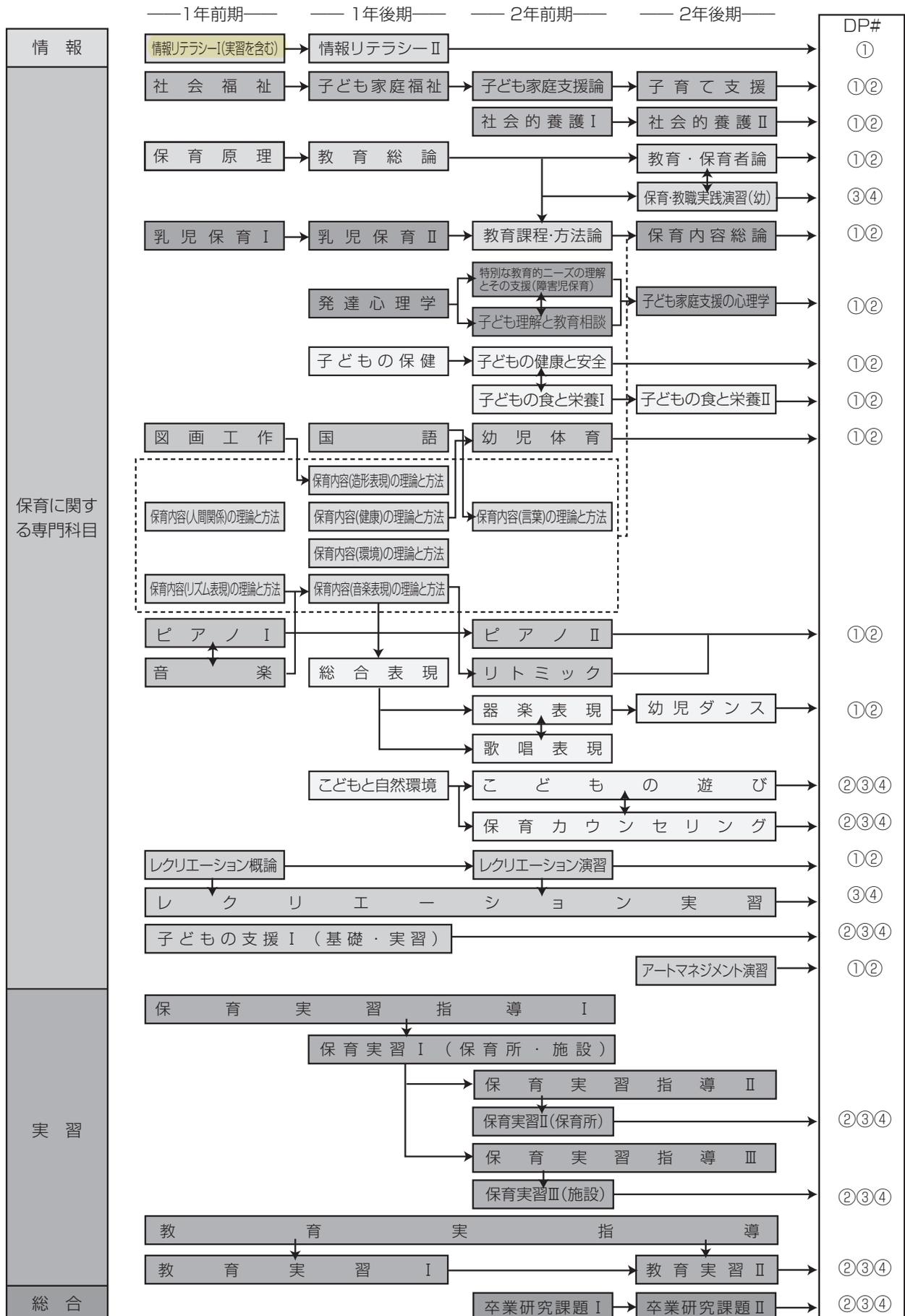
令和3年度入学生 科目系統図 (地域生活支援学科多文化コース 専門教育科目)



01
02
03
04
05

履修ユニット

令和3年度入学生 科目系統図 (幼児保育学科 専門教育科目)



(目的)

第1条 西九州大学短期大学部における学生の教育に関する重要事項を審議し、その適正かつ円滑な実施を図るため、西九州大学短期大学部教務委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号の事項を審議する。

- (1) 教育課程の編成、改廃に関する事項
- (2) 授業計画の立案に関する事項
- (3) 履修に関する事項
- (4) 試験、成績評価に関する事項
- (5) 卒業及び学位の授与取得に関する事項
- (6) 各種資格の取得に関する事項
- (7) 教育施設及び教育設備等に関する事項
- (8) その他教務に関し必要な事項

(構成)

第3条 委員会は、次の各号に定める者をもって構成する。

- (1) 副学長
- (2) 教務部副部長
- (3) 各学科長
- (4) 各学科から選出された専任教員各1人
- (5) 教務課長補佐

(委員の任期)

第4条 前条第4号の委員の任期は、1年とする。ただし、再任することができる。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置く。

- 2 委員長は、教務部副部長とし、委員会の議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長が指名した委員が委員長の職務を代行する。

(会議の開催及び議決)

第6条 委員会は、委員長が必要と認めたとき、又は過半数の委員から要請があったときに、委員長が招集する。

- 2 委員会は、委員の3分の2以上の出席がなければ会議を開くことができない。
- 3 委員会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 4 委員会は、自己点検・評価に向けて、定期的に在学生の代表者もしくは学外者が参画する会議を企画し、直接意見を聴取する場を設けることができる。
- 5 委員長は、必要と認めるときは委員以外の者の出席を求め意見等を聴取することができる。

(教授会への報告、承認)

第7条 教授会の審議事項に係るものについては、委員会の審議結果を教授会に報告し、その承認を得なければならない。

(事務局)

第8条 委員会に関する事務は、教務課において処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則 (平成21年2月4日)

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則 (平成23年11月 日)

この規程は、平成23年11月9日から施行し、平成23年4月1日より適用する。

附 則 (平成24年5月9日)

この規程は、平成24年5月9日から施行し、平成24年4月1日より適用する。

附 則 (平成27年3月4日)

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則 (平成30年9月5日)

この規程は平成30年9月5日から施行し、平成30年4月1日から適用する。

西九州大学短期大学部企画専門委員会内規

(趣 旨)

第1条 この内規は、西九州大学短期大学部企画委員会規程（以下「委員会」という。）第7条に基づき、必要な事項を定めるものとする。

(業 務)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 全学的な教育課程編成に関する事項
- (2) 教育プログラムに関する事項
- (3) その他、企画委員会又は企画専門委員会が必要と認めた事項

(構 成)

第3条 委員会は、次の各号に定める者を以って構成する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 各学科長
- (4) 教務部副部長、学生支援部副部長及び入試広報部副部長
- (5) 各コース主任
- (6) 実務のある教員
- (7) その他学長が指名する者若干名

(委員の任期)

第4条 前条の委員の任期は1年とする。ただし、再任することができる。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、企画委員会委員長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長が指名した委員が委員長の職務を代行する。

(会議の開催及び議決)

第6条 委員会は、委員長が必要と認めたとき、又は過半数の委員から要請があったときに、委員長が招集する。

- 2 委員会は、委員の3分の2以上の出席がなければ会議を開くことができない。
- 3 委員長は、第3条第1項第6号の委員については、必要と認めるときに招集する。
- 4 委員会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは議長の決するところによる。
- 5 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め意見等を聴取することができる。

(委任)

第7条 第3条第1項第6号の委員は、委員会の招集に際して職務の都合上やむを得ない場合は、委員長あてに意見書を提出し、欠席することができる。

- 2 委員長は、定足数の算定において、意見書による委任をされた者を出席とみなし、議事を開き、議事を決することができる。

(企画委員会及び教授会への報告、承認)

第8条 教授会の審議事項に係るものについては、委員会の審議結果を西九州大学短期大学部企画委員会の議を経て、教授会へ報告し、承認を得なければならない。

(事務)

第9条 委員会に関する事務は、総務課において処理する。

附 則 (令和3年9月1日)

この内規は、令和3年9月1日から施行する。

西九州大学短期大学部点検・評価に関する規程

(趣旨)

第1条 この規程は西九州大学短期大学部（以下「本学」という。）の教育・研究の水準の維持向上を図り、かつ、本学の目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育・研究活動並びに大学の管理運営等の状況について点検及び評価を実施するにあたって必要な事項を定める。

(点検・評価事項)

第2条 本学の点検・評価は、次の各号に掲げる事項について行う。

- (1) 教育理念及び目標に関する事項
- (2) 教育活動に関する事項
- (3) 研究活動に関する事項
- (4) 教員組織に関する事項
- (5) 事務組織に関する事項
- (6) 施設整備に関する事項
- (7) 社会との連携に関する事項
- (8) 管理運営及び財政に関する事項
- (9) 点検・評価の体制に関する事項
- (10) その他、次条に定める運営委員会が必要と認めた事項

(運営委員会)

第3条 本学に次の各号に掲げる事項を行うために、西九州大学短期大学部点検・評価運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

- (1) 点検・評価の基本事項に関する事項
- (2) 点検・評価の実施に関する事項
- (3) 点検・評価の活用に関する事項
- (4) 点検・評価報告書の作成及びその公表に関する事項
- (5) その他、点検・評価に関し必要な事項

(運営委員会の組織)

第4条 運営委員会の委員は、次の各号に掲げる者を持って組織する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 各学科長
- (4) 教務部副部長、学生支援部副部長及び入試広報部副部長
- (5) 事務局次長
- (6) その他学長が指名する者若干名

(運営委員会の委員長)

第5条 運営委員会に委員長を置き、学長をもって充てる。

2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員が、その職務を代行する。

(運営委員会の議事)

第6条 運営委員会は、委員の3分の2以上の出席がなければ、議事を開き、議決をすることができない。

2 議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

3 運営委員会が必要と認めたときは、委員会に委員以外の者の出席を求め、その意見を聞くことができる。

(専門委員会)

第7条 運営委員会に、点検・評価に係る専門的事項を処理するため、専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会に関し必要な事項は、運営委員会がその都度定める。

(点検・評価の報告書)

第8条 点検・評価の結果は、4年を超えない範囲で報告書として作成し公表する。

2 前項の報告書については、本学の職員以外の者による検証を行うよう努めるものとする。

3 点検・評価の結果、改善が必要と認められる事項については、その改善に努めるものとする。

(事務局)

第9条 運営委員会及び専門委員会に関する事務は、総務課において処理する。

(雑則)

第10条 この規程に定めるもののほか、運営委員会の運営に関し必要な事項は、運営委員会が別に定める。

附 則 (平成23年7月25日)

1 この規程は、平成23年7月25日から施行する。

2 西九州大学短期大学部自己点検・評価検討委員会規程(平成5年12月6日制定)は廃止する。

附 則 (平成24年5月9日)

この規程は、平成24年5月9日から施行し、平成24年4月1日から適用する。

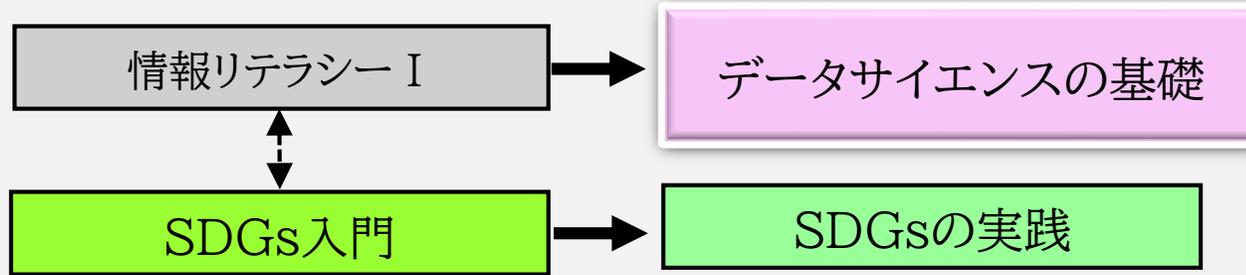
附 則 (平成27年3月4日)

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則 (平成28年12月12日)

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

全学共通開講（プログラム名：データサイエンス（リテラシーレベル）教育プログラム）

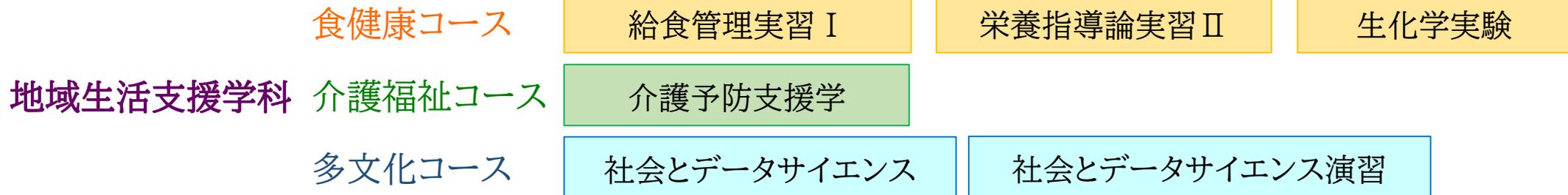


データサイエンスとSDGsを有機的に組み合わせ地域課題を客観的指標で観察・分析する力を身に付ける。

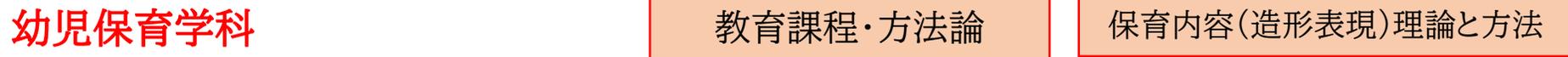
学科の専門性にデータサイエンスの知識や技術を導入し、客観的データを基礎とした多角的な視点をもつ。

学科別開講（専門基礎）

授業科目群①



授業科目群②



1年前期

1年後期

2年前期

2年後期

全学共通開講（プログラム名：データサイエンス（リテラシーレベル）教育プログラム）

情報リテラシー I

データサイエンスの基礎

SDGs入門

SDGsの実践

学科別開講（専門基礎）

給食管理実習 I

生化学実験

栄養指導論実習 II

介護予防支援学

社会とデータサイエンス

社会とデータサイエンス演習

保育内容(造形表現)理論と方法

教育課程・方法論

データサイエンス教育プログラム点検・評価組織図

